

子どもたちの故郷を愛する心を育てる

本家に学ぶ 郷土芸能「こきりこ唄」

「こきりこ唄」の本山・富山県越中五箇山こきりこ唄保存会の大瀬國隆会長ほか5名が、6月23日に羽幌町を訪れ、唄や踊りを通して多くの町民とふれあいました。



初日に行われた「はぼろ学講座」には約50名の町民が参加。全員で「ささら踊り」や「手踊り」を体験しました。



一行を囲んで質問タイム。「五箇山の合掌造りについて」や「こきりこ唄をどう伝承しているか」など活発な質問が飛び交いました。



羽幌小学校での様子。6名という少ない人数ながらも迫力のある舞を披露し、子どもたちを魅了しました。



実技指導では、短冊形のうすい板が何十枚も合わさった「板ささら」や「こきりこ竹」のコツを伝授。上手に音を出せたかな？



最終日の25日には舟橋町長を表敬訪問。近況報告や昔話に花を咲かせ、3日間の交流を締めくくりました。

羽幌町と富山県旧平村（現在の南砺市平地域）は昭和54年に友好町村を締結。昨年、交流30周年を記念して舟橋町長をはじめとした訪問団が南砺市を訪ねた。羽幌町こきりこ唄保存会でも中高生の実技研修を目的にこきりこの故郷を訪れています。

今回は、子どもたちの伝統文化の継承と郷土芸能への関心を深めてもらおうと羽幌町こきりこ唄保存会が富山県越中五

箇山こきりこ唄保存会の招へいを計画。羽幌町人づくり事業補助金を活用して来訪が実現しました。24日には、学芸会にこきりこ唄を取り入れて、羽幌小学校を訪れ、4～6年生を対象に本場の唄と踊りを披露したほか、平地域と羽幌町とのつながりをわかりやすく説明。また、板ささらの持ち方やこきりこ竹の鳴らし方など楽器の指導にもあたり、多くの子どもたちが、こきりこの文化や歴史を学びました。

